

(科目名:小論文)

■ 解答例(概略)

◆ 重要性

- ・ 現代の建築(都市)においては、すべての人が快適かつ安全に利用できる「バリアフリー」の概念に基づく設計が求められている。しかし、実際には高齢者や障がい者にとって使いにくい建築や移動が困難な都市も少なくない。
- ・ だれもが自立して建築(都市)の中で過ごせる環境を整えることは、人権や平等の観点でも重要。

◆ 具体的な手段

- ・ ユニバーサルデザイン:誰でも使いやすい設計。自動ドア、握りやすいドアノブ、多機能トイレなど。
- ・ 段差のない設計:スロープの設置、ノンステップバスなども。
- ・ 適切な寸法:廊下や出入口、エレベーターなどの大きさに配慮。
- ・ 適切な動線:エレベーター、トイレなどの位置を分かりやすく、また利用しやすい場所に配置。
- ・ 視覚・聴覚サポートの整備:点字ブロックや音声案内、照明の工夫、スマートフォンを活用。

◆ 導入に向けた課題

- ・ 既存建築物はバリアフリー未対応:改修には多額の費用を要する、物理的な制約もある。
- ・ コストがかかる:小規模な建物や民間施設では「採算が取れない」と判断されることも。
- ・ デザインとの調和が難しい:バリアフリーと建物の美観や景観との両立。
- ・ ユーザー目線の設計の不足:法律の最低基準で「十分」と考える場合も多い。
- ・ 使う人のニーズ把握:実際に使う人(高齢者、障がい者など)の意見が組み込まれていない。結果的に使いにくい施設に。

■ 採点の観点

- ・ バリアフリーの重要性について示されているか。
- ・ バリアフリーの手段は具体的に示されているか。
- ・ 示された手段の導入に向けた課題について、具体的かつ論理的に示されているか。

■ 出題の意図

2年次編入試験であるため、解答に際しあまり専門知識を要しない小論文のテーマとした。

令和8年度 工学部第2年次編入学 学力試験 出題の意図

土木建築学科 建築学教育プログラム

(科目名:構造力学)

垂直応力度および垂直ひずみ度の定義と、それらに関係づけるフックの法則に関する理解度を問うとともに、日本の棒材を並列接合することで応用力を問う問題とした。